

'85 マウンテン・タイム・トライアル 阿蘇

噴煙あがる阿蘇山頂めざして105名が激走!!



噴煙をあげる阿蘇をバックに表彰式

マウンテン・タイム・トライアル'85が、10月20日(日)に105名が参加して阿蘇登山有料道路(坊中線)で開催された。

熊本県阿蘇山での開催は今回が初めてのこともあり、地元テレビ局や新聞社も取材にかけつける。スタート会場となった阿蘇ユースホテルには早朝から参加者がぞくぞくと詰め掛けた。

熊本県サイクリング協会の協力で、受付と車検が手際よく行われる。今回の大会には、阿蘇登山有料道路の管理者である熊本県公営企業局より、男子2クラスの3位までにメダルと参加者全員に記念のタオルが特別に配られ、受付脇の机の上に並べられたトロフィーを見て参加者の意気込みもあがる。

10時30分、曇り空の下、元気に男子35才未満クラスの参加者が5名ずつ、ピストルの合図で阿蘇山頂めざして飛び出して行く。コース途中の草千里は日曜日ということもあり観光客でごったがえしている。コース距離が15kmと短いこともあってか、参加者のスピー

ドが予想以上に早い。時計が11時10分を差すころには、次々と参加者がゴールする。

表彰式は13時30分より噴煙をあげる阿蘇山をバックに行われ、受彰者は参加者のあたたかい拍手に思わずニコリ。今回参加者が少なくクラスとして成立しなかった女子の参加者、内藤静代さんにJCAから特別賞が送られると会場からさらに大きな拍手があがった。

〔男子35才未満〕

優勝	永野 一敏 (20)	熊 本	31 : 56
2位	重田 一生 (21)	福 岡	33 : 33
3位	岩本 克己 (17)	熊 本	33 : 53
4位	古賀 俊臣 (18)	福 岡	34 : 33
4位	中國 栄次 (22)	福 岡	34 : 33
6位	塩月 文治 (28)	大 分	34 : 38
7位	水野 義弘 (28)	熊 本	34 : 53
8位	近藤 敏也 (25)	愛 媛	35 : 03
9位	湯浅 安治 (26)	福 岡	35 : 13
10位	中村 博昭 (26)	佐 賀	35 : 23

〔男子35才以上〕

優勝	伊藤 喜春 (40)	福 岡	38 : 06
2位	小田 頼雄 (51)	福 岡	40 : 52
3位	楢形 利十 (48)	熊 本	41 : 22
4位	田崎 黎治 (49)	福 岡	41 : 52
5位	児玉 良夫 (37)	熊 本	41 : 53
6位	南部 龍一 (42)	大 阪	42 : 16
7位	吉本 亮介 (48)	熊 本	42 : 27
8位	秋月 秀樹 (39)	福 岡	44 : 09
9位	増田 義晴 (47)	大 分	44 : 36
10位	甲斐 寛之 (47)	熊 本	44 : 45

〔女 子〕

	内藤 静代 (30)	熊 本	50 : 27
--	------------	-----	---------

評議員会・理事会開催

JCA61年度事業計画(案)を審議

JCAは、去る9月12日昭和60年度評議員会を開催して、61年度事業計画(案)を審議するとともに、新役員を選任を諮った結果、次の諸氏が新役員として決定、同月26日に第59回理事会を開催した。

〔新役員〕

会長	安井 謙	
副会長	馬越 善通	
理事	寺見 守	長谷川純三
"	江橋慎四郎	藤井 務
"	吉田 正志	小川 魁
"	○伊藤栄太郎	佐近 光三
"	青木 泰三	○平井 全
"	西島 司郎	○鳥山 新一
"	篠崎 政治	豊田英之助
"	○小沢福次郎	宮田 朝夫
"	柳原 重夫	川村 幸雄
監事	佐々木 宏	○畠山 正観
顧問	宮本 惇	○黒岩 登
相談役	丸山 愛吉	(○印は新任者)

東京協会 佐近光三氏 60年度レク運動功労者で表彰

当協会の理事で東京サイクリング協会の常任理事である佐近光三氏(61才)が、今年度のレクリエーション運動功労者として、10月26日(土)三重県伊勢市で開催される第39回全国レク大会で表彰されることになった。

同氏は昭和30年に設立された東京サイクリング協会常任理事に就任以来、サイクリングの普及に尽力、あわせて東京都レク連盟理事・常務理事を歴任し、連盟運営担当として指導的立場を果した。

また、自然保護・自然公園の適切な利用普及の運動にも熱意をしめし、昭和53年には環境庁より大臣表彰を受けた。サイクリングはもとより自然愛護、レク運動に果した功績がきわめて大きいことから今回の表彰となった。

〈昭和60年度〉

全国月別会員証発行状況

県名	8月		9月	
	当月計	累計	当月計	累計
北海道	166	716	0	716
青森	115	115	0	115
秋田	0	54	0	54
山形	0	115	0	115
岩手	0	67	0	67
宮城	1	112	0	112
福島	2	231	2	233
群馬	23	159	2	161
栃木	2	188	0	188
茨城	0	73	7	80
茨城	100	100	0	100
千葉	3	64	1	65
東京	0	259	20	279
神奈川	0	115	0	115
山梨	0	56	0	56
長野	2	3	0	3
新潟	113	113	35	148
静岡	3	149	1	150
愛知	0	200	0	200
岐阜	15	59	1	60
三重	0	0	0	0
富山	0	0	0	0
石川	0	28	0	28
福井	2	93	0	93
滋賀	0	53	4	57
大津	27	388	7	395
奈良	0	32	5	37
和歌山	0	0	0	0
兵庫	0	110	0	110
岡山	0	291	0	291
広島	0	20	6	26
山口	0	128	15	143
鳥取	0	0	0	0
島根	0	252	0	252
香川	0	137	5	142
徳島	0	111	16	127
愛媛	0	147	0	147
高知	2	42	0	42
福岡	2	300	8	308
佐賀	7	72	0	72
長崎	0	30	0	30
熊本	8	316	0	316
大分	0	82	20	102
宮崎	55	55	9	64
鹿児島	0	0	0	0
計	648	5,635	164	5,799

'85 センチュリーラン (北海道)

北海道初の大会に130名が参加



音更町サイクリングターミナル前をスタート

9月22日(日)に北海道帯広の音更サイクリングターミナルを会場に、'85センチュリーラン(北海道)が開催された。

JCAが主催するセンチュリーでは初めての北海道大会であったが、143名が全道各地から参加した。大会当日の朝、受付や車検が初まった頃にあいにく雨がポツポツと降りだし、北海道ということもあり肌寒く、参加者は氣勢をそがれた感じ。それでも8時半からのスタートには元気に多数の声援を受けて飛び出して行った。

コースは十勝川温泉にある音更サイクリングターミナルをスタートし、反時計回りに池田町～浦幌町～本別町～ターミナルの160kmで、昼には雨も止み日が差して温度も上って参加者には良い条件となってきた。コース途中にいる十勝協会の役員からは、参加者が元気に通過して行くとの連絡が本部に入る。

午後2時頃には次々とゴールする者が見られ、参加者は疲れた体を温泉で温めた。

〔北海道センチュリーラン参考記録〕

出走 130名

4時間台 2名 5時間台 30名

6時間台 48名 7時間台 39名

リタイヤ 11名

福井県で女性サイクリング

9才から60才までが元気に完走!!

福井市、市教委、市レク協会共催、福井県サイクリング協会主管による福井県では初めての女性サイクリング大会が、10月13日福井市内で開催された。

この大会は、女性を対象に健康づくりと自転車の安全運転を心がけてもらう主旨で開かれ、小学三年生から60才までの女性とサイクリング協会のリーダーら計70人が参加した。

トレーニングウェア姿の参加者は福井市体育館に集合、注意事項を聞いた後、8時45分にリーダーの先導で朝倉氏遺跡をめぐる40キロのコースに出発した。

この日はどんよりしたくもり空で、午後から雨が降りだしたものの、全員が元気に完走し秋の休日を楽しんだ。

ちよつとお耳に.....

一泊千円(朝食サービス)の旅籠がある

「学生サイクリング一泊千円、朝食無料サービス」こんな看板を掲げた旅館が茨城県にある。国道6号、高萩警察署前の旅籠(はたご)泉屋(高萩市高戸306-2)がそれ。

経営者の泉豊さん(33才)は「金のない人から金は取りたくないですから」と、男気を見せる。55年6月オープン以来、ずっとサイクリングを楽しむ若者には、この値段でサービスしてきた。東京→北海道、東京→仙台など、高校生、大学生のサイクリング旅行に、この旅籠泉屋は休息の場を提供してきた。

サイクリストの口こみ、看板を見ての飛び込み客と、特に夏休みの間の利用が多い。夕食を注文しても500円という値段は、全国にもそうあるまい。

泉さん自身、学生時代は柔道や空手で鍛えたスポーツマン。一般の利用者は素泊まり(朝食サービス)2000円。(常陸讀売より)

里の秋で知られる

斉藤信夫のふるさとを走る

(女性サイクリストのつどい)



千葉県サイクリング協会の主管による女性サイクリストのつどいが、10月21～22日の2日間成東町の民宿を借切って催された。

関東各地から32名が参加し、中にはご夫妻で参加した茨城の木村さん、今は別世帯になった長野の徳竹さん、小林さんの姉妹もいた。

遠方からの参加者のため、集合は午後1時すぎ。全員揃った所で夏を思わせる秋空の下を、思い思いの服装で一路、浪切不動尊へと輪を進めた。路の両側には成東町名物の落下生畑がつつき、その中をのんびりと走る。食虫植物群落地を過ぎ、まもなくして民俗資料館(伊藤左千夫生誕の家)に着く。映画でおなじみの「野菊の如き君なりき」が撮影された場所であるという。資料館には古い竹リムの自転車があり、興味深くのぞきこむ。見学も終り九十九里平野と両総台地の間に広がる田園地帯を一路宿へと向かった。

宿は成東海岸近くにあり、結婚式場もある静かな宿であった。交歓会まで時間があるので、ススキの葉でバッタの作り方をレクリエーション協会の二村先生から教えてもらう。今にも飛び出しそうな出来ばえに皆童心にかえり歓声をあげた。

そうこうするうちに歓迎の夕が開かれ、千葉県協会の斉藤・岩倉両副会長の歓迎の言葉

のあと、二村先生の司会でなごやかにプレゼント交換、自己紹介があり、沢山のごちそうを目の前に感激。

宴も進むにつれて東京の松本さんの美声に始まり、次々と歌がつつき数時間があっというまに過ぎてしまった。

翌朝7時30分、バスで工業地帯を通り浦安へと向い、東京デズニーランドを見学し解散となった。

東京サイクリングロータリー会員

竹沢荘一氏・黄綬褒章受章



(写真中央が竹沢荘一氏)

東京サイクリング・ロータリークラブの会員であり、日本アドベンチャー・サイクリストクラブの会員でもある竹沢荘一氏(63才)(竹沢国際特許事務所所長)が黄綬褒章を受章し、その記念祝賀会がサイクリスト有志により10月21日、東京の東郷記念館で開かれた。

黄綬褒章は、ひとつの仕事に打ち込み社会に貢献した人に贈られるもので、竹沢氏は横浜国立大、ケンブリッジ大を卒業した後、長年にわたって国際特許の仕事をされ、今回はそれに対する受章である。

竹沢氏は仕事以上に、また自転車をも愛し、過去何度も海外にサイクリングに出かけており、今年の5月にも単独でスペインの巡礼街道(370km)を走ってきている。JCAの主催するラリーにも何度も出ており顔見知りの方も多いと思う。

祝賀会は竹沢氏と海外サイクリングを共にした者などが多数集まり、楽しい受章祝賀会であった。